

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
371	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Dimensionality of lifetime alcohol abuse, dependence and binge drinking. アルコール中毒、依存、多量飲酒の程度	
執筆者	
Hasin DS, Beseler CL.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Drug Alcohol Depend. 2009; 101: 53-61.	
キーワード	
アルコール中毒、DSM-IV診断、程度診断、NESARC	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>先行研究によれば中等量の飲酒は健康によいとされているが、これについて高齢者で検討された例はほとんどない。従って高齢者における飲酒と身体的な健康度に関わる生活の質（HRQoL）の変化との関係について検討を行った。</p> <p>方法：</p> <p>対象は Australian Longitudinal Study on Women's Health の参加者で、1996年に行われた第一次調査の際 70-75歳の女性 12,432人で、3年おきに追跡調査が行われ6年間追跡された。HRQoLの縦断データを解析する際には疾患のある人を除くと結果が過大評価される傾向にあるため、エンドポイントに死亡情報を入れた分と入れない分で解析をすることとし、HRQoLと経過ともなうHRQoLの減少について検討した。高齢女性にとっての有害な飲酒量をわりだすため、飲酒量は7つのカテゴリーに分けられた。Medical Outcomes Study で用いられた調査票（SF-36）により身体的構成要素についてのスコア（PCS）を算出し、PCSと死亡情報と合わせたPCS（transformed PCS）の2つを本研究ではHRQoLを表すスコアとし、必要な交絡因子を調整して死各飲酒量のグループにおいてHRQoLの変化を検討した。</p> <p>結果：</p> <p>6年の追跡期間中にPCS、transformed PCSの両方で有意なスコアの減少が観察され、非飲酒者と稀にしか飲まない人ではスコアは他の飲酒グループに対し低かった。非飲酒者とたまにしか飲まない人のPCSでは、アルコールと観察時間との間に有意な交互作用が認められ、死亡した人の影響により第2期調査でのスコアが課題評価された。しかしtransformed PCSではこれらの交互作用は消失し、第3期調査では飲酒とHRQoLの量-反応関係がより明らかになった（多く飲酒するほどスコアが多く減る）。</p> <p>結論：</p> <p>非飲酒者では死亡及び身体的HRQoL減少のリスクが高かった。中等量の飲酒であれば害はなく、高齢女性では健康保持に良い可能性がある。</p>	